日本協会だより

4月度常務理事会

日　時　平成6年4月17日（土）10時30分～16時45分

場　所　岸記念体育館504会議室

出席者　中澤専務理事、常務理事8名

1．日本リーグオーナー会議

オーナー会議に先立ち開催した各チームの部長による部長会について報告。この会で出された意見を反映し、実現に向けて努力することとした。

斎藤会長を委員長としてオーナーで編成する特別委員会を設置することに決定した。

オーナー会議への具体的提案は『日本ハンドボール界発展の展望と施策』とする事とした。

2．男子世界選手権大会アジア地区予選について

大会期間は5月3日～8日とする。5月4日18時よりAHF役員夕食会、20時より代表者会議を開催。5月8日の表彰式には斎藤会長が出席。

審判はIHF派遣審判員としてスロベニア、AHF派遣審判員としてクウェート、バーレーンよりそれぞれ1ペアが来日する。日本協会派遣役員は中澤専務理事、常務理事全員とし、全員が5月8日のさよならパーティーまで広島に常駐する。

3．97世界選手権大会招致活動について

4月28日からのIHF評議会に合わせて招致活動を行うため、熊本県知事、市長、県・市議長、県体協会長以下がスイスのローザンヌ市を訪問する。

また、評議会期間中にプロポーザルの詳細について打ち合わせを予定し、準備を進めている。

熊本市に建設が予定されている屋内競技場のデザインコンペの入選作が披露された（観客席は仮設を含め1万人）。

4．評議員提案のナショナル選手報奨金について

小西常務理事を中心に検討委員会を組織。検討し5月度常務理事会で審議することとした。

5．委員会の運営について

用具、用品検定委員会、委員長大塚常務理事。登録委員会、委員長大西常務理事。委員は委員長の指名とすることとした。

6．国体記録用紙について

愛知県よりの国体記録用紙の質問については、現用の公式記録用紙を使用することを回答することとした。

7．日・中・韓ジュニア交流の派遣選手について

日本はジュニア選抜チームを派遣。選手団は役員5名、選手男女各12名の合計29名とする。

国体予選との関係は県予選に出場すれば本大会に出場できるが、出来得る限りブロック予選の日程調整を図る。

8．オリンピックソリダリティーについて

今回はナショナルチームを対象にして、IHF、CCMのアラン・ルンド氏による講習会を開催する（女子6月25、26日＝日立栃木、男子6月30日～7月2日＝大同特殊鋼）。

9．指導委員会報告

2000年を目標に国体ベンチ入りスタッフ、ナショナルスタッフ、各連盟代表チームスタッフは公認コーチの資格取得を義務付けることを検討。

10．強化委員会報告

本年度の行事として女子はハンガリーのスパルタカス、男子はドイツ（世界選手権東アジア予選の結果を見て）の来日が予定されている。

IHF提唱のハンドボールワールドディ（6月23日）の行事として中国が国際大会を開催したい意向であるが、日本はナショナルチームの遠征と重なるため今回は参加しない。

11．JOC強化主任、専任コーチについて

強化主任コーチに井強化委員長、強化専任コーチに蒲生男子ナショナル監督を前年度に引き続き指名することを決定。

12．チャレンジマッチについて

本年度の実施は財源確保の見通しがついた段階で検討することとした。

13．普及委員会報告

小学生大会使用球は1号ボールとすることとした。本大会は文部省の後援が決定した。平成8年度よりスポーツ少年団大会とする方向で検討中との報告あり。

14．日本リーグ委員会報告

日本リーグ分担金を改正し1部チーム150万円、2部チーム95万円とすることが運営委員会承認事項として提案され承認された。

15．その他

今後、資料作成は国際企画であるA4判に統一することに決定。

以上

6月度行事予定

●大会

6/19～22 世界学生女子選手権大会

●ナショナル活動

5/21～6/15 女子A 強化合宿 熊本（オムロン）

5/10～6/6 男子A ヨーロッパ遠征

●会議

6/4 6月度常務理事会

6/11 平成6年度第1回理事会

6/25 平成6年度第1回評議員会

●その他

5～6 B級審判審査会 全国各地

5～6 A級審判審査会 全国各地

CONTENTS

第14回男子世界ハンドボール選手権大会東アジア地区予選



韓国優勝、日本はプレイオフへ

5月5日～8日に広島で開催された第14回男子世界ハンドボール選手権大会東アジア地区予選の結果、韓国が優勝。日本は惜しくも2位となり、9月に行われるプレイオフで西アジア地区の2位チームと第3代表の座を争うこととなる。（試合詳報、次号掲載予定）

試合結果

日本	22	（11－6、11－8）	14	中華人民共和国
韓国	36	（20－10、16－11）	21	中華人民共和国
韓国	25	（11－9、14－8）	17	日本



'97WC ニュース

IHF評議会にプロポーザル提示

井　薫

4月27日から5月1日まで、スイス・ローザンヌで行われたIHFの評議会に、日本協会と熊本サイドで構成される招致委員会は、二つの目的を持って訪問しました。

先ず日本協会（井、竹野、植村）は、4月上旬に渡欧され、IHFのレイモンド・ハーン専務理事と予備交渉を行った渡邊副会長のご報告を踏まえ、検討された大会開催に伴う金額や大会スケジュールを正式なプロポーザルとして提示しました。

開催権料と位置付けは数字を示しますと、IHF側より幾つかの付帯事項の説明があり、その中の世界選手権大会開催規約にあるものについては了解しましたが、それに加える形で新たなる項目もあり、それは93男子スウェーデン、女子ノルウェー、95男子アイスランド（女子は未定）にも適用されたものであるとの事で、日本としてはこれらの国に確認する必要があり保留。また、ビッグテーマのメディアを含むエージェント（CWL）については9月のIHF総会で開催地決定後、IHF、CWL、日本の三者で話し合いを始める事になり、この件は専門家を交え、じっくりと腰をすえて勉強・検討が求められる事項だとの認識を改めて強くしました。

IHF側の出席者はハーン氏の外にグロック会計局長（ドイツ）とビルケフェルド事務局長（ドイツ）の3人で、したたかな交渉相手でした。

ただプロポーザルはやはり何度となく討議されて落ち着く性質のものでしょうし、通訳と専門家が前述のスウェーデン、ノルウェー、アイスランドに出かけて、大会開催の実状を調査するのも大切な事で、日本協会としての対応がいよいよ本格化していかなければ前進していかない部分だと思います。

二つ目の目的は、熊本サイドにおけるプレゼンテーション（案内・紹介）。28日夕の招宴は熊本市長主催として、IHFアーウィン・ランク会長夫妻のほか幹部、さらに各大陸代表の理事、熊本サイドは福島知事、田尻市長、八木体育協会長ほか県・市の代表者。



レマン湖に面した古城のシャトー・ドゥ・ウ・シーホテルレストランで田尻市長の表敬の挨拶についで、ランク会長は日本の招致活動を評価し、「この様なメンバーでの表敬に感謝。確約は出来ないが、今回の活動は9月の総会での良い結果につながるであろう」と挨拶をされ、福島知事が大会の主会場となるドーム球技場の説明をパネル、写真等で行い、出席者の関心を呼びました。

大陸代表ではアメリカのピーター・ビュウニング会長に久し振りに会えました。日本女子がモントリオール・オリンピックに出場するための三大陸の予選をアメリカのミルウォーキーで行い、オリンピックの出場権を得た当時に随分お会いした方で、昨年の11月のクウェートのIHF評議会に出席の途中、ロンドンで入院された事を聞いて心配していましたが、お元気になり安心しました。97熊本の事を知っていて、大賛成と語ってくれました。

アジアの代表の金宗河氏にも相変わらず大変お世話になりました。皆様の理解と支援で大会の実現が、かなり確かなものになった印象を受け、初夏の爽やかなローザンヌの短い滞在でしたが、有意義に過ごす事が出来ました。

日本リーグ

オーナー会議報告

20チームの代表が意見交換

日　時　平成6年4月21日（火）13時30分～15時30分
場　所　経団連会館906号室
出席者
（日本リーグ）
大崎電気、湧永製薬、日新製鋼、本田技研、本田技研熊本、大同特殊鋼、オムロン、北国銀行、大阪ガス、トヨタ自動車、大和銀行、北陸電力、トヨタ車体、中村荷役、東北ムネカタ、三陽商会、三景、JUKI、日立栃木、徳山曹達、以上20チームのオーナー若しくは代理
（日本協会）
斎藤会長、立石副会長、米倉副会長、渡邊副会長、中澤専務理事、松本監事、他8名
（司会）
市原実連理事長

■議事要旨

1．斎藤会長挨拶

昨年11月開催のオーナー会議に際して活発なご意見と、日頃のご協力に感謝申し上げたい。

前回の会議を参考に、オーナーによる特別委員会の設置に向けハンドボールの発展と、97男子世界選手権大会の熊本開催のバックアップを基本に、具体的な内容を検討してきた経緯と、熊本への招致活動について報告いたしたい。

2．今日までの経過…中澤専務理事

第15回世界男子選手権大会の招致について、昨年9月に自治体の積極的支援が決定。IHF、AHFに対し立候補の意志を表明、招致活動に着手。11月のオーナー会議でご支援をお願いした。

日本のハンドボールのメジャー化のために、世界選手権大会を是非開催したい。やるからには上位進出しなければならない。しかし日本協会にそれだけの資金力があるのか検討して来た。これらを踏まえて、会長より特別委員会設置について提案がなされ、強力な支援体制を整備するために、オーナー各位にお知恵をお貸し戴くべく、正副会長名でお手紙を差し上げたが、説明不足があったため、更に真意をお伝えすべく4月9日に部長会を開催し、討論戴いた。

熊本での上位入賞に向けて、選手強化、日本リーグの活性化について報告。財源問題についても報告がなされた。

3．97世界男子選手権大会招致活動について…渡邊副委員長

ハンドボールの発展のために世界選手権大会の開催を検討してきたが、昨年9月の自治体による支援決定を6月の全国理事会、評議員会で承認されており、その後、熊本県、熊本市のご協力をいただいて招致活動を展開。各種世界大会、AHF理事会等に代表団を派遣、プレゼンテーションを実施してきた。現在、TVの放映体制を含め具体的な条件…ボのステップに入り、4月末

からスイスで開催されるIHF理事会に提案し、9月のオランダにおける総会での決定を目指している。

対立候補のエジプトは治安、資金面で問題があり、現状ではアシア連盟の支援を受けた日本が有利に進めてはいるが、予断は許されない。

日本チームが強くなければ世界の強豪との好ゲームは望めないし、活性化も、大衆化も期待出来ない。このために絶大なご支援をお願いしたい。

4．会長からの要望

組織の活性化を図り、日本ハンドボール競技のレベルアップに取り組み、ナショナルチームを強くしたい。

日本で世界選手権大会が開催出来ればラッキーだ。世界選手権大会を誘致することは大変難しいことだ。もし日本で開催できるのであれば、日本ハンドボール競技のレベルアップにつなげ、人気も上げてほしい。世界選手権をきっかけにスポーツ界の中での、ハンドボールの認識を上げてほしい。このチャンスを逃がしてはいけない。

具体的な推進方法として、このオーナー会議を、日本協会を強力に支援する特別委員会と位置付け、その下に運営委員会を置き、世界選手権推進、選手強化、広報マーケッティングの3委員会と財務担当を設け、全オーナーが一丸となった活動を展開する。

運営委員長には米倉副会長、選手強化担当には湧永実連顧問、世界選手権推進担当には渡邊副会長、広報マーケッティング担当には立石副会長と各副会長級にご就任戴き、また各オーナーもそれぞれの委員になって戴き、総力を上げて協会の支援体制作りをしたい。皆様方から忌憚のないご意見を戴きたい。

5．オーナーからのご意見、ご質問（抜粋）

・世界選手権大会開催の目的がよくわからない。

・選手強化、普及についてどのような改善策があるのか。

・世界選手権大会のための財源確保なのか、強化費用なのか。

・特別委員会について実務レベルで、更に検討すべきと思う。

・私どもオーナーは常々ハンドボールのメジャー化について熱意を持って努力している。今回の提案については各チームの足並みが揃うことを第一条件、金銭面についても妥当かどうか更に審議してほしい。

・会長提案の「ハンドボール界活性化のための選手発掘・育成・強化事業等に対する財源確保のお願い（案）」は案ではなく、決定でよい。

・オーナー会議の位置付けをはっきりしてほしい。

・部長会の結果が反映されていない。

6．まとめ…米倉副会長

白熱したご意見に対し感謝申し上げる。特別委員会の組織について議論を詰め、オーナーの了解も得て進めたい。

熊本の世界選手権大会で恥をかきたくない。強いチーム、そして裾野の広いハンドボールにして戴きたいので、ぜひ強力なご支援をお願いする。

〔斎藤会長〕　皆さんが理解した上で案を練り直し、十分納得戴いて進めることとしたい。手続きの不備があったようなので特別委員会で審議して、最終案を提案することとしたい。

以上

広島アジア競技大会まであと4ケ月

アジア競技大会施設専門委員（広島県協会常務理事）　山本　一

10月2日の開会式まで、あと4ケ月を残すのみとなりました。大会における準備も、開会式、閉会式が行われる広島広域公園の運動施設をはじめ、広島市の中心地からメイン会場までの約18㎞を約37分で結ぶアストラムラインも完成し、あとは選手村等の完成を待つだけとなりました。

大会は10月2日の開会式を皮切りに10月16日までの15日間、広島市を中心とした広島県内各地（一部山口県宇部市で開催）で43の国及び地域が参加し、34競技及び芸術展示が行われます。参加選手、役員数は総勢７３００人が予想され、大会運営費は２８９億円が見込まれています。

第二次世界対戦終結の原因ともいえる原子爆弾が広島の上空でさく裂し、尊い人命が多数亡くなり、廃墟と化した広島で平和と友好を旗印にしたアジア競技大会が開催されることは誠に有意義なことといえます。

アジア競技大会が広島で開催されることとなったいきさつのあらましは、次の通りです。

昭和53年3月の広島市議会において、荒木武前広島市長が大規模な国際スポーツ大会を広島で開催したいと発言されたことが契機となって、アジア大会を広島に招致しようとする機運が広島市の体育関係者を中心に急速に高まりました。荒木武氏は現在もご健在ですが、広島市長に就任されるまでは永年広島市ハンドボール協会の会長をしていただいた方です。

それからは市から県、県から国へと市民の熱意は高まり、アジア競技連盟（アジア・オリンピック評議会の前身）への働きかけとなりました。日本体育協会からも広島のアジア競技大会招致に対し賛意を得、招致委員のメンバーの中に前日本ハンドボール協会副会長の荒川清美先生がおられたことはご存知の通りです。

最終決定までには、北京の立候補など、調整作業もあったようですが、ＯＣＡ会長のシェイク・ファハド氏の尽力などにより、昭和59年の9月、北京市で行われたＯＣＡ総会により１９９０年の北京大会、１９９４年の広島大会が同時に決定した次第です。



広島開催が正式に決定してからは、広島県、広島市を中心とした準備委員会、発展して大会組織委員会を結成し、大会本番に向けて準備を進めてまいりました。全体の概要は以上の通りですが、我がハンドボール競技におきましても、日本協会としても初めての大イベントですし、準備作業もどこから手をつけてよいかわからない状態でした。幸い各競技においてもそうですが、行政側の配慮により、プレ大会を行うべしということになり、ご存知のようにハンドボール競技におきましては、１９９１年に本番のアジア大会以上の規模となる男子19の国及び地域、女子5の国及び地域の参加をみたアジアハンドボール選手権大会を開催することが出来ました。これを何とか乗り切れたことは、この上ない自信となりました。そうして準備を進めているうちに、急遽この5月に広島で第14回男子世界選手権東アジア予選を広島で開催することになりました。先日、大会を終了した訳ですが、途中まで参加の予定であったカザフスタンが急遽参加をとりやめるといったハプニング等もあり、これまたアジア大会を迎えるにあたって勉強になりました。

5月10日現在、ハンドボール競技における参加申込みは男子5ケ国、女子5ケ国ですが、もう少し参加国を増やすべく、先日来日されたアジアハンドボール連盟の第一副会長・金宗河氏をはじめとするＡＨＦ理事にもお願いしたところです。吉報を待つと共に大会での全日本男女チームのアベック優勝を願いながら大会の準備を進めてまいります。皆様、ハンドボールファンの一層のご支援、ご鞭撻を願ってやみません。

日本リーグ新加盟チーム紹介

イズミ女子ハンドボール部

いよいよ活動開始！

広島県ハンドボール協会



創部記念式で（前列左から山西泰明オーナー、高西宏昌部長、松本義樹監督）

　中国地区初の女子実業団チームとして昨年7月に発足した中国地方をよエリアとするリージョナルチェーンのイズミハンドボールチームが、少数精鋭のチーム構成ながらいよいよ本格的活動を開始しました。

　イズミチームの話が持ち上がったのは、今から2年前。3年後（当時）の広島国体を見越して、広島県体育協会から広島県ハンドボール協会の山下会長に「女子の実業団ハンドボールチームを作ってみては…」という話があり、広島県のハンドボール界の普及発展を考えていた山下会長も、大いに乗り気で、かねてより親交のあった地元スーパーの最大手「イズミ」の山西義政会長、山西泰明社長に話を持ち掛けた。

　当初は人気のサッカー、野球に比べどんなものかといった思いもあったようだが、広島で開催された日本リーグ等を観戦いただいたところ、スリリングで熱狂的に応援できるスポーツだという認識をされ、本格的な準備に入った。

　イズミの営業エリアである中国地方を中心に、ハンドボールを通じて地域への貢献を第一の目標に、地元の中高生ハンドボーラーのあこがれとなり、かつ地域出身選手の就職の受皿となる、ハンドボール部の活動を通じて土内の活性化を図る、といった趣旨にのっとって創部に踏み切った。

　広島県のハンドボール界の現状は、一般男子ではご存知のように、日新製鋼、湧永製薬の強豪チームを擁し、活況を呈している。中国地区の高校女子では広島の山陽女子高校、第一女子商業高校、山口県の徳山商業高校、岩国商業高校、華陵高校、岡山県の玉野光南高校などから過去優秀な選手を多数輩出していたが、卒業した後に地元でハンドボール活動を本格的に行うことは出来ない状態であった。こうした背景のもと、イズミのハンドボール部発足はまことにタイムリーであったといえよう。

　監督、選手の人選は県協会を通じて行ってきたが、選手の第1号として、昨年4月に山陽女子高校出身で筑波大学の主将を務めた長久直子さんが入社した。その後、やはり山陽女子高校出身で日本リーグのジャスコでも活躍したGKの小林ゆり子さんも10月から入社し、以後今年の新卒者も含め、当初目標の14名には足りないが3月末現在10名の選手が集まった。

　中でも、山下県協会長の力添えで元韓国のナショナルチームの選手でバルセロナ五輪の金メダリスト、林王卿（イム・オーキュン）選手を獲得できたことは大ヒットであった。日本の選手が彼女の持つハンドボールセンスを身につけたら、素晴らしいチームに変身するであろう。

　また注目の監督は、元湧永製薬で小柄ながら日本リーグで最優秀シュート率賞を7年連続で獲得し、竹芝精巧（京都府）の監督としてチームを日本リーグ2部に昇格させた実績のある松本義樹氏（41才）が就任。抱負として「厳しい練習に耐え抜く精神力を持った明るいチーム作り」を掲げている。

　チームのこれからの目標はもちろん日本リーグ一部優勝であるが、今年から幸運にも日本リーグ二部での出発となり、創部当初の目標は5年後の一部昇格であったが、2年繰り上げ、3年目に一部昇格を狙うということである。ハンドボール部長の高西宏昌専務の陣頭指揮の元、必ずや目標は達成されることであろう。

　現在は、専用練習場もなく、新装なった広島県立体育館、東区スポーツセンター等で練習を行っているが、山西泰明社長も創部記者発表の席で、「適当な時期に専用体育館を建てたい」と、全面的なバックアップを約束されており、選手たちも一層張り切らざるを得ない状態である。

　10月のアジア大会、2年後の広島国体を控え、日増しに熱が高まっている広島県のスポーツ界の星として、イズミハンドボール部の活躍を期待するものである。

株式会社トクヤマ

初心を忘れず、大暴れしたい！

監督　中村　逸富



若さで旋風を起こすか
山口県の株式会社トクヤマ

今年度から日本リーグに仲間入りすることになりました株式会社トクヤマです。

我がトクヤマチームは、昭和47年に同好会として発足、翌48年に会社が認める部に昇格しました。丁度この年に県内の企業チームが山口県実業団リーグを発足し、当社チームも県リーグに参加し活動して来ましたが、5年位前から山口県のハンドボール活性化のためにも、日本リーグチームが必要であると感じ始め、また、日本リーグで試合が出来ればという思いを夢見ながらチームを強化して来ました。

昨年、その夢が現実のものとなり、今後は、協会の方々と共に山口県のハンドボールの発展へつなげて行きたいと考えています。創部からリーグ加盟に至るまでを振り返り、チームの現状と今後の目標を含めて我がチームを紹介します。

昭和48年の創部から昭和50年代前半まではハンド経験者も少なく、山口県の実業団では最下位を争っていました。昭和50年代後半から、ようやくハンド経験者でチームも組めるようになり、昭和59年に初めて全日本実業団トーナメント大会に出場。これが全国への足かがりとなり、日本リーグ2部チームと戦える唯一の場として、この大会を目標に練習に励みました。またこの頃から、部の組織化、選手の育成強化に取り組み始め、併せて「地元でハンドを」という選手を中心に声をかけ、補強をして来ました。その結果、平成に入ってからのトーナメント大会では、白星こそ奪えなかったものの、2部チームと互角に勝負が出来るようになり、スタッフあるいは選手たちにも「2部リーグで試合がしたい」という雰囲気が徐々に強まって来ました。

そこで、日本リーグに関する情報を集め、会社へのアピールを開始し、平成4年、正式に「日本リーグを目指したい」という意志を伝え、全面協力のGOサインをもらいました。

当社は今までに日本リーグチームを持った経験がなく、昨年の日本リーグへのチャレンジは、部員たちのハンドボールに対する情熱が通じた結果が、会社の勇気ある決断に結びついたものであり、初めてのチャンスを生かし、リーグ入りを果たせたことは非常に大きな収穫でした。

現在の部員数は、新人を含め16人と他の日本リーグ勢に比べれば小所帯ですが、若手とベテランとがうまく溶け込みあってチームワークは抜群です。レギュラーの平均年令は22才と若く、GK村上を中心とした守りのチームですが、今年2月末に行われたJHLルーキーカップでは、パワーとスピードに圧倒されて、やらなければいけない課題も多く残されていることを痛感しました。また練習は、ハンドボールが半面しか取れない小さな体育館で実施しており、環境的には決して恵まれてはいません。そこは部員全員が強い連帯感と夢を実現した感激を持ち続け、このハンディを乗り越えて、厳しい練習に取り組んで行きたいと思います。

今後の夢は「一部昇格、全日本選手輩出」などと大きく持っていますが、今シーズンの目標となると、やはり「二部に残ること」です。我々はもとより、山口県内のハンドボーラーが長年にわたって描き続け、やっと手に入れた日本リーグの座を簡単に手放すわけにはいきません。11月からの日本リーグ開幕に向け、初心を忘れず、プレッシャーをプラス方向へ生かし、リーグで大暴れしたいと思っています。

最後に、山口県のハンドボールは、中学、高校と非常に盛んで、全国でもトップレベルの力がありながら、優秀な選手は県外へ流出していました。この状況に対し、我々の役割は、これからもっとレベルを上げ、県内の各チームへよい刺激を与え続けながら地域一体となって「山口でハンドボールを」という選手が増えていけばと考えています。それが地域の活性化になると共に、今までトクヤマハンドボール部を育てて頂いた協会並びに連盟に対し、少しでも恩返しとなればと思っています。

オリンピック有望選手候補に選ばれて

冬のJOCカップで…

室蘭市立本室蘭中学2年　前田　誠一



ぼくがハンドボールを始めたのは、中学校に入ってからだ。小学生の時にやっていた野球を続けるか、他の部に入るか迷っていた時、笹森先生に「みんなで全国目指そうな」と言われ、その一言でぼくはハンド部に入ることを決心した。はじめは、ハンドボールというスポーツさえ知らず、ただ言われるままにボールをまわしたり、シュートをうつだけだった。そして、何も知らないうちに、冬の全道大会の新人戦に出場し、そこで北海道選抜に選ばれ、函館の凌雲中の人たちといっしょに大阪へ行った。結果は、みごと北海道優勝。優勝といっても、ぼくは試合には出れず、ベンチで応援するだけだった。

この時、最優秀選手賞に北海道から三田君が選ばれた。彼のポストへのパスや、シュートはとてもすばらしかった。ぼくは、この三田君のプレーを見て、「この人を目指してがんばろう」と思った。あれから1年後の冬の新人戦で、本室蘭中から赤間君、五十嵐君、ぼくの3人が選ばれた。「今年こそJOCカップで活躍してやる」という決意を胸に大阪へ行った。

しかし、1回戦目の沖縄選抜に22−17で敗れた。この時、まさか最優秀選手賞に選ばれるとは思わなかった。ましてオリンピック有望選手候補なんて考えもしなかった。でも、これで満足してはならない。たまたま、ぼくは運がよかっただけなのである。全国には、まだまだぼくの尊敬すべき人がたくさんいる。ぼく一人の力でここまで来れたのではない。笹森先生をはじめ、多くの監督さんたち、家族のみなさんにも感謝している。

ぼくたちには、まだ優勝するチャンスが残されている。冬のJOCカップだ。夏には、はたせなかった優勝を実現させることが今の目標である。



悔しさを次の試合で…

函館市立凌雲中学2年　町出　智也



「まさか！」選ばれるとはまったく思ってもいませんでした。確かに、思いおこせばすごい場面はあったと思いますが、でも、判断は遅い、甘いシュートが取れないなど、決して選ばれるほどの実力があるとは思ってもいませんでした。僕がこの素晴らしい選手候補に選ばれることができたのは、半分は運だったのかもしれません。

けれど、運だと思っても選ばれた時は、とても感激しました。最高の喜びでした。

今回の試合では、残念ながら僕たちのチームは負けてしまい、悔しい思いをしました。けれど、そのことでいろいろな課題を見つけることができました。また、全国から選ばれたたくさんのGKのプレーを自分の目で見ることができ、とても勉強になりました。

今回、この選手候補に選ばれることができたのは、半分は運だと言いましたが、あとの半分は、いろいろな方々の支えがあったからだと思います。練習で厳しい中、たくさんのことを教えて下さった小林礼先生、毎日共に一生懸命練習を積んできた仲間たち、いろいろな雑用をしてくれたマネジャー、そしてアドバイスをたくさんして下さった先輩のおかげだと思います。特に先輩たちには、ハンドボール入部したての自分に、やさしく、わかりやすく、親切に教えて下さったことに、今とても感謝しています。

入部してから2年。GKになってから1年半。その間、苦しい練習の方が多く、辛くて、何度もやめようと思いましたが、今は仲間や先輩方とのりこえてきて本当によかったと思っています。これからは、試合で得た課題を一つ一つのプレーを練習の中で解決し、あの時の悔しさを、次の大会で仲間と共に全力でぶつけたいと思っています。また、これまでたくさん助けて下さった人たちや、支えて下さった人たちに感謝しながら、謙虚にそしてくじけず有望選手に恥じないよう練習に励み、僕にとって最後の中体連に向かって頑張ろうと思っています。

姉と一緒に五輪が夢

本渡市立佐伊津中学2年　前田　美穂





私は中学校へ入学する時、部活は何に入ろうかと迷っていました。一つ上の姉はハンドボールをやっていて、私にきついから入らない方がいいと毎日の様に言っていました。でも、小学校の頃バスケットをやっていたので、どんなつらい練習にもたえる自信はありました。そして迷いに迷った末ハンドボール部に入部することにしました。練習を始めてみて、内心楽な部にしておいたらよかったなぁ、と思うことが度々ありました。でも、小学校の頃からのバスケット仲間と励まし合いながら頑張ってきました。

今回行なわれたJOCの大会2ケ月くらい前からは選抜チームの合同練習が始まり、一緒に優勝できるよう頑張ろうと話し合いました。そして、チームワークを向上させるため、住吉の選手の家に泊めていただきました。おかげでチームも一つにまとまりました。

そして、全国大会が始まり、1回戦、2回戦と勝ち抜き準決勝は昨年、決勝で負けた富山選抜でしたので、今年卒業した先輩達の分まで気合いを入れて頑張りました。決勝は大阪選抜に無事に勝ち、全国大会優勝、そして私は最優秀選手賞やベストセブン賞というすばらしい賞をいただきましたが、チーム全員で勝ち取ったものだと思います。また、その陰には沢山の人達の力添えがありました。特に松橋高校の先輩達には、毎週練習相手になっていただき、負け続けでしたが最後の試合で引き分け、自信がつきました。また厳しすぎ、嫌になることもありましたが、いつも私達の体を気遣って下さる先生方にはとても感謝しています。

私の将来の夢は、姉と一緒にオリンピックに出場し、同じコートに立ちプレイすることです。そのため、これからももっと厳しい練習を重ねて今より多くの技術と体力を身につけていきたいと思います。

平成5年度コーチ・レフェリー・シンポジウム報告

ルールの解釈についての確認

審判委員会委員長　大塚　文雄

平成6年3月11日から13日にかけて行われたコーチ・レフェリー・シンポジウム終了後、審判委員会において検討事項を審議した結果、次の結論を得、各都道府県協会、各ブロック協会審判長、また、各連盟審判長に通達した。通達の内容は次の通りであるので、関係各位にあっては参考にされたい。

平成6年3月19日

ルールの解釈についての確認

1．競技中断後の再開について

1993年競技規則解釈の13競技の中断（18：14）（ルールブックP57）13　競技の中断（18：14）

レフェリーが、プレイヤー、またはチーム役員を注意、もしくは罰則を適用するために競技を中断したとき、競技は、違反の行なわれた地点から、相手のフリースローによって再開される。或いは、明らかな得点のチャンスに、競技が中断されたならば、7mスローが与えられる。競技が、タイムキーパー、スコアラーによって中断されたならば、止められたときの状況にふさわしいスローで再開される。（競技規則）

今まで、日本の多くのレフェリー達は、ベンチの役員や選手を注意したり、警告を与えるためにタイムアウトをとった時、タイムアウトをとった時にボールのあった位置から、ボールを保持していたチームのフリースローで競技を再開していました。しかし、この条文の解釈は、ボールを保持しているチームの役員を注意するためにタイムアウトをとった時は、違反のあった場所、つまりベンチ前から相手チームフリースローで競技が再開されます（ボールの保持が変わる）。

しかし、フリースロー等で、競技がすでに中断しているときには、再開の理由にふさわしいスローで再開します。

2．タイムアウト後の競技の再開について

攻撃側チームのプレイヤーが負傷したので、レフェリーがタイムアウトをとり、ドクターを呼び入れた。負傷者とドクターがコートから出て、攻撃側にフリースローをする準備がととのったので、再開しようとしたが、防御側チームがベンチ前でミーティングを続けていた。そこでレフェリーは防御側チームをディフェンスの位置につかせてから競技を再開させた。

このような場合、レフェリーは防御側が位置につくのを待つ必要はない。攻撃側の準備が整った時点で、競技を再開すべきである。この事はルール上まったく問題ないことです。もし、レフェリーが防御側にディフェンスにつくよう指示することは、防御側チームに加担したことになるので注意が必要である。

3．レフェリーの入場許可の合図について

レフェリーがタイムアウトをとり、コートへの入場を許可する合図をした場合には、両チームのベンチにいるすべての者が、コート内に入ることが出来る。

4．タイムアウトは必要最小限にとどめる事

退場や7mスローのたびにタイムアウトをとる必要はない。また、試合の終盤において、残り時間を特別意識する必要はない。ルールの適用は、1試合を通じて同じでなければならない。

また、同じチームに続けて退場を与える場合には、先に退場したプレイヤーの退場時間がロスしないようにタイムアウトはとるべきである。しかしAチームを退場にした後、すぐにBチームに退場を与える場合には、後から退場になったBチームのプレイヤーが速やかにコートから出なければ、先に退場したAチームに退場時間がロスし有利になるので、タイムアウトをとる必要はない。

日本ハンドボール協会審判委員会見解

この見解は日本ハンドボール協会の公式見解である。ただし、あくまでもこのビデオテープに見られるこの状況においての判断である。今後のレフェリング、コーチングの参考にしていただきたい。

★危険なプレイ

例1　高松インカレ

速攻からチャージングの違反の後、フリースローを行う。ポイントにGKが立ち逆速攻に出たサイドプレイヤーにパスを出す。ハーフラインを過ぎたあたりでボールをキャッチしようとした。相手チームのGKが速攻を阻止しようとハーフライン近くまで飛び出し、チャージングの違反を誘い出すように立ちふさがった。攻撃側選手はGKが飛び出していることには気が付きにくい状況である。GKは静止してポジションをとったかは微妙なタイミングである。衝突は正面衝突であった。GK、攻撃

側プレイヤー双方ともにダメージがあったが、GKは競技に復帰し、攻撃側プレイヤーはその後競技に出場することはできなかった。

レフェリーはタイムアウトをとり、両チームの役員に入場許可のジェスチャーをした。すぐに逆速攻を追いかけるレフェリーがチャージングの違反の判定をした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

この場面に限っていえば、GKの一連の行為は危険な行為と判断する。相手側チームのプレイヤーがボールを取るために横向きで走っているのに対し、この状況で衝突による負傷の危険を避けることのできるのはGKだけである。ボールを取ったプレイヤーが避けるだけの間合いがあれば別の判断となる。規則8：3と8：11、8：13のいずれかの選択の前に、概念に示されている「相手の身体を傷つけることなく、チームに本来のプレイを行う正当なチャンスをあたえることである」が優先されるべきである。

GKには罰則の段階的適用をし、GKが飛び出し無人のゴールであってもCPがボールをコントロールしていない状態は明らかな得点のチャンスとはいえず、フリースローで再開するのが適当である。

例2　ソウルオリンピック

攻撃側右45プレイヤーがフリースローラインに沿ってジャンプパスをしようと飛び上がった。防御側プレイヤーはジャンプしたプレイヤーの足をすくうような動作をして転倒させた。転倒したプレイヤーはその旨レフェリーにジェスチャーでアピールした。レフェリーは防御側チームのプレイヤーを警告とした。

《IHF・PRC見解》

危険なプレイであり、失格が適当である。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

危険なプレイであり、失格が適当である。

★望ましくないプレイ

例3　全日本総合

攻撃側右45プレイヤーがアウトカットインからポストにパスを入れた。ホールディングの違反があるものの最後まで違反を続けなかったので振り切りシュート態勢に入った。違反をした隣のプレイヤーが足を引っ掛けた。シューターはバランスを崩した。シュートはゴールに入り得点となった。レフェリーはこの行為に気が付かなかった。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

規則17：5b、1993年競技規則解釈8：dにより、失格が適当である。

例4　アジア選手権

攻撃側左サイドプレイヤーがドリブルフェイントカットインしようとした際、防御プレイヤーが出した腕を攻撃プレイヤーの脇に挟み込んでカットインしようとした。コートレフェリーが防御プレイヤーを警告とし、さらに攻撃側プレイヤーにも警告とした。ゴールレフェリーも攻撃側プレイヤーに注意をした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

攻撃側プレイヤーが選択するプレイではない。規則17：1dとして警告としたレフェリーの処置は適切であった。

例5　アジア選手権

7mスローが得点となった後、GKが直ちにスローオフをしようとセンターライン方向に走った。センターライン付近まで来たとき、自陣コートに戻らず座り込み靴紐を結び始めた。GKはスローオフをするためにパスを出したがスローオフは成立しなかった。レフェリーはタイムアウトをとり、靴紐を結んでいたプレイヤーを退場とした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

規則8：13、17：1d、17：3c、17：11を適用して罰則の段階的適用をしたレフェリーの処置は適切であった。

★チャージング

例6　全日本総合

防御側プレイヤーが立つ狭い部分へのカットインに対しチャージングの違反が判定された。速攻から右45プレイヤーがカットインしようとした。防御側プレイヤーはチャージングの違反を誘うように進路に立とうとしたが、位置をとるに至らず胸からぶつかりにいく状態となった。レフェリーは防御側プレイヤーのプレッシングの違反を判定し、フリースローとした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

チャージングの違反をとりにいこうとするプレイヤーのプレイの選択は正当であるが、結果としてボールを取りにいっていない状態、即ちプレイヤーの身体を対象としている場合で違反が起きれば、規則8：13によりフリースローとなり、罰則の段階的適用が適当である。

例7　全日本総合

ポストにパスが入りドリブルし前に進んだ。その後急停止し反転しようとしたが背後から迫ってきた防御側プレイヤーと衝突した。レフェリーは攻撃側プレイヤーのチャージングの違反を判定した。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

チャージングではない。

★違反のないプレイ

例8　全日本総合

速攻から中央にカットインしようとしたプレイヤーに横から身体めがけて飛びついて阻止しようとした。最近では見ることが少なくなったラフプレイである。レフェリーは17：3最終段落を適用し退場とした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

規則8：4、8：10、8：13、17：3最終段落により退場としたレフェリーの処置は適切であった。

例9　全日本総合

速攻から中央でノーマークとなった。横から追ってきた防御側プレイヤーは攻撃側プレイヤーがジャンプしようとしたときは防御態勢をとらずGKにまかせた。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

特に言及しない。

★アピールと抗議（異義の申し立て）

例10　京都国体

ゴール前中央でフリーになりカットインからシュート。シュートはゴールに入った。GKは着地であるとジェスチャーでアピールしている。ゴールレフェリーは得点を認めた。コートレフェリーと防御側プレイヤーがコート内でにらみ合いながら警告としている。プレイヤーは警告を認めて手を挙げているがレフェリーはしばらくプレイヤーをにらんでいる。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

誰の責任というのではなく、このような状態は望ましくない。プレイヤー、チーム役員、レフェリー等、競技に参加している全ての人たちや観客が納得できるようなプレイ、レフェリングを心がけるべきである。

例11　京都国体

ポストで攻撃側、防御側プレイヤーが小競り合いをした。ゴールレフェリーが笛の合図で防御側選手のプッシングの違反を判定した。判定に不服なのか、防御側プレイヤーが手を広げ納得できない、不満である、何もしていない、等のジェスチャーでアピールした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

誰の責任というのではなく、このような状態は望ましくない。プレイヤー、チーム役員、レフェリー等、競技に参加している全ての人たちや観客が納得できるようなプレイ、レフェリングを心がけるべきである。

例12　京都国体

ドリブルで速攻しているプレイヤーに側方から阻止しようと防御側プレイヤーが違反をした。レフェリーは罰則を段階的に適用し退場とし7ｍスローとした。周囲の防御側プレイヤーは納得できないとするジェスチャーで不満を表わした。攻撃側プレイヤーが7ｍラインにボールを置いたが、防御側プレイヤーはそのボールをフリースローとするべく蹴った。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

防御側プレイヤーがボールを取りにいこうとした行為であるが、ハッキングの違反で7ｍスローとなるのは適切な処置であったが、退場は適切でない。

ボールを蹴った行為は不当な行為であり、プレイヤーの意志よりも結果が優先される。規則16：7、17：1dにより、少なくとも警告としなければならない。

例13　京都国体

シュートリバウンドを防御側プレイヤーがゴールエリア内に足を入れた状態でボールをはたきだした。ゴールレフェリーはフリースローの判定をしたが、同時に攻撃側プレイヤーから今のプレイはというようなジェスチャーがあり、コートレフェリーが防御側プレイヤーに警告とした。罰則を段階的に適用しなければならず退場となった。攻撃側、防御側チームの主将が質問にきてレフェリーが答えているが、その他のプレイヤーも執拗にジェスチャーでアピールする。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

レフェリーの処置は適切であった。

例14　仙台インターハイ

ポストのカットインシュートに対して、防御側プレイヤーがホールディングの違反をした。レフェリーは7ｍスローと退場を判定した。プレイヤーは一旦交代地域に戻ろうとするがレフェリーに抗議（異義の申し立て……主将かどうかは特定できないが）する。レフェリーはプッシングの違反であるジェスチャーをし、プレイヤーの背中を押し、コートから出るように促す。納得できないのか再度抗議にいくが背中を押されて不承不承出ていく。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

プレイについては言及しない。主将の異義の申し立ては18：13に規定されているが、レフェリーの観察による事実判定には権利がない。その後のプレイヤーの行動は不当であり、チーム役員から指示があったかないかには関係なく規則8：13、17：1dにより罰則の段階適用となり、レフェリーが失格を適用しても良いケースである。

例15　日本リーグ

攻撃側右45プレイヤーのアウトカットインに対し、防御側プレイヤーのプッシングの違反であるとして退場の判定があった。交代地域の役員から抗議→不当な行為（異義の申し立て→主将だけに権利がある……アピール→不当な行為）があった。レフェリーはタイムアウトをとり、座るように指示した後に警告とした。

【日本ハンドボール協会審判委員会見解】

プレイについては言及しないが、チーム役員には異義の申し立てをする権利がなく、規則17：1d、交代地域規定5－2ｂによるレフェリーの処置は適切であった。

コーチ・レフェリー・シンポジウム

参加者からの寄稿(その2)

フェアプレーへの接点

福岡県ハンドボール協会審判委員長
森山　正治

テーマ
「Handball 2000」
将来のハンドボールをめざして

上記のテーマの元、第2回目のコーチ・レフェリー・シンポジウムが開催された。この会の主旨は、現在のハンドボール界にとって最も重要なこと、それは「尊敬・フェアプレーの確立」であり、フェアプレーとは〝ルールを〟〝相手選手を〟〝レフェリーを〟尊敬することであると思われるが、皆さんはどう思われますか。基本的ルールを、競技に携わる人々が共通の理解を示すならば、ハンドボールという競技の姿が明らかにされ、その物が持つ特性や魅力が最大限発揮されるのではないでしょうか。ハンドボール競技の発展を阻害している理由の一つに、レフェリー・コーチ・プレイヤーのルールに対する共通理解の不十分さがあげられますし、同じハンドボールに携わりながらコーチサイドとレフェリーサイドに目に見えない壁があり、それがハンドボールの発展を阻害しているのではないか。その問題点解消と、さらに資質向上を目指すために企画されたのがこのシンポジウムだと思われます。

開会に先立ち大塚文雄審判長の、基調講演が行われ、「監督、コーチから見たレフェリーの問題点」と言うことで、笛の力とアピールの力のぶつかり合う中で、レフェリーがゲームに集中するために、立ち会い人制度の必要性を述べられた。

大西武三指導委員長は「将来のハンドボール競技の発展と方向性について」と言うことで、コーチやレフェリーは自分の立場に立てば、チームを強くしたい、良い笛を吹きたいと自分自身の欲求を満たそうとする行動が前提としてあるのは当然のことである。しかし、そのエネルギーをハンドボールの発展に繋げるためには**将来の方向性を描きつつ行わなければ、ハンドボールの未来を広げることはできない**。また競技自体も、勝つことを強制する時代から、勝つことの努力と同時に見せる努力が必要な時代へと移行しつつある、と述べられた。

話は変わるが、先日九州学生連盟の韓国遠征に帯同レフェリーとして国際試合の貴重な体験をすることができた。しかもそれは世界ナンバーワンの韓国チームであった。レフェリングで感じたこと、日本との違いは、選手がルールに精通していることと、レフェリーの心理を読んでくることであった。オリンピック等での日本のコーチングスタッフは、レフェリーの資格を持つ人は数少ないのに対し、韓国のコーチングスタッフは、国際レフェリーの資格を持つ人が多く(2月東京で行われた国際A·レフェリーテストに韓国の鄭亨均氏＝バルセロナオリンピック金メダル監督が受験)そのためかプレイヤーがレフェリーの心理をよく読んでいる(技術だけでなく、心理学まで学習なされている)。また、レフェリーを試して、レフェリーのハンドボール観や、基準を確認し、それに合わせてプレーを行うといった離れ業には怖さと凄さを体感させられた。

以上のことからしても韓国においては、勝つためにコーチサイドとレフェリーサイドがルールやハンドボール観に対して十分な共通理解がなされているということである。

これから**日本がオリンピックや世界選手権大会等の出場権を獲得出きるかどうかは**、技術だけではなく、こういった**コーチとレフェリーが一体となったシンポジウムをより充実させることが**大切なことと思われる。またハンドボールの全体像を理解するために、今回企画された、

NHKの杉山茂氏から
「メディア界からみたハンドボールの将来」
Jリーグ佐々木広報室長
「Jリーグまでの道のりと将来展望」
ドクター浜脇純一氏・坂本静男氏
「医学から見たハンドボール」
等

が大切なことと思われます。

最後になりましたが、今回このような会を企画して頂きました日本協会指導委員会並びに審判委員会の方々に厚く感謝申し上げます。

ハンドボール選手のコンディショニング
（1993年度ナショナル選手の体力測定結果）

田中　守

従来からナショナルチームの国際競技成績は、男女とも望ましい結果とは言えない。とくに本年度は、10月に広島アジア競技大会、そして5月には世界選手権大会のシード権獲得のための東アジア選手権大会（男子）がいずれも地の利を得た広島市で行われる。

何とか日本ハンドボール界挙げての宿願であるアジア地域代表権を韓国から奪取する足掛りを得て欲しいものである。

従来から男女ナショナルチームの競技力向上の課題の一つに体力づくりが指摘されてきたが、胎動2年目のナショナルチームの達成効果を体力測定結果から述べてみたい。

ナショナル選手の強靱な基礎体力づくりの目標水準（ハンドボール協会スポーツ医科学委員会提唱）としての背筋力指数（背筋力／体重）の達成状況をみても男女ナショナル選手の目標基準3・0に対して1名（平均2・48）、女子ナショナル選手基準2・3に対して1名（平均1・92）であり、握力指数（握力／体重）も男子1・0の目標基準に対して3名（平均0・80）、女子基準0・8に対して1名（平均0・63）に過ぎない。

またハンドボール競技特性として前半・後半の各30分間に行われる30回前後の激しい攻防として、1回10～30秒間の無酸素的な間欠運動の継続が強要される面から当然要求される有酸素的能力も更に年間を通じた向上が必要である。

男子ナショナル選手のこの1年間の体力のトレーニング処方とトレーニング効果をみてみよう。

1　1993年度トレーニング処方

(1)　1992年度体力測定結果に基づき、筋肉量の増大と筋力・筋パワーの徹底的向上。

(2)　試合期に合わせたスタミナの向上。

(3)　トレーニングのシーズン区分として、プレシーズン（4月、12月下旬以降）＝バルクアップ型（筋肉量の増大）を、シーズン中＝パワーアップ型（筋力、筋パワー、筋スピードの向上）を、試合期＝週1回の筋パワー維持型の自主トレーニングの実施。

（バルクアップ型）：10RM（10回持ち上げられる負荷強度＝50%）×3セット（休息1～2分）3～4回／週。

（パワーアップ型）：5RM×3セット（休息3～4分）最大筋力の50%×15～20回×3セット（休息3～4分）3～4回／週。

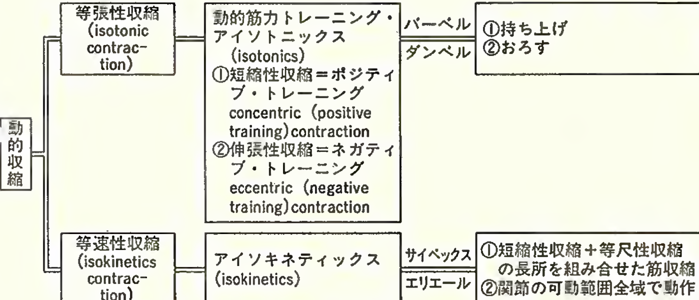
（筋パワー維持型）：パワーアップ型（軽い負荷強度）1～2回／週。

(4)　スタミナトレーニング：プレシーズン＝持続走3～4回／週、シーズン中＝インターバル走3～4回／週、試合期＝インターバル走1～2回／週。

2　トレーニング効果（男子ナショナル選手）

(1)　体重が2kg増加したことは、体脂肪量と筋肉量の増加が認められた。周育としても胸囲1・4cm、上腕囲1・4cm、大腿囲1・7～1・8cmの増加がみられた。

(2)　筋力では握力（屈指伸筋）では有意な向上はみられなかった。又握力指数で1・0到達者はなく0・8水準が9名（1993年度3名）であった。しかしながら背筋力21・0kg、ベンチプレス8・3kg、スクワット25・7kgとそれぞれ大幅な向上がみられた。とくに軀幹筋の指標としての背筋力では平均205kg（1992年188kg、1993年195kg）に向上した。背筋力指数目標水準3・0到達者は田中（茂）選手1名であったが、4名が2・8水準と逐次向上傾向がみられたことは、力強い男子ナショナルチームへの変身と評価したい。またハンドボール選手として絶対的条件としての等速性脚筋力（60deg／sec）から屈曲／伸展比をみると、下肢傷害発生原因としての65%水準以上の選手は、昨年2名に過ぎなかったが、ハムストリング（下肢屈曲筋群）の重点強化結果から、橋本（115%）、田中（雅）（107%）らを筆頭とし、全員が達成したことは、従来のプレーに余裕力が持て、かつ傷害予防にも有用といえる。



筋の収縮様式トレーニングの方法

(3)　無酸素パワーは全員に向上がみられたが、有酸素パワー（全身持久力の指標としての最大酸素摂取量は55・4ml／min／kg）水準と昨年度よりも低下傾向がみられた。

(4)　今後の強化方向としては、筋力づくりとしては、Isometricな握力・背筋力、Isokineticな脚筋力の向上結果を維持しつつ、全身持久力の向上に努力すべきであろう。

またトータルコンディショニングとしてもナショナルチームに常時スポーツドクター、トレーニングドクター、トレーナーの帯同が望ましい。

（スポーツ医科学委員会
監修：西山逸成）阿部徳之助

参考：現代体育・スポーツ体系（浅見俊雄他）、体力づくりハンドブック（西山逸成他）

連載7

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三
東田　美保
（筑波大学大学院）

1　ゴールキーパーの技術と指導

GKの指導は指導者が専門的にやった経験がない限り、練習はGKまかせと言ったことが多いのではないでしょうか。非常に研ぎ澄まされた感覚が必要なため、その細部に渡る技術面やコツを指導するのが非常に難しいものである。

GKの試合における重要性は非常に大きいものがある。コートプレイヤーの全体的な競技力にそれほど差がない場合は、GKの技術・戦術的能力がものをいう。強いチームには必ず優秀なGKがいるもので、その存在によって1試合5～6点は確実に違ってくる。また優秀なGKでシュート練習を積んだプレイヤーは試合でプレッシャーを感じることなくシュートを打つことが出来る。反対に試合で優秀なGKに出会ったとき、入るはずのシュートが入らず、益々プレッシャーを感じ、ことごとくシュートを外してしまう例も珍しくない。又、シュート阻止だけでなく、ボール処理後の速攻へのパスアウトの技能は、速攻のチャンスを倍加させ一瞬にして得点を重ねていくことが出来る。優秀なGKを持てば、「守って速攻」という最も理想的なゲーム運びをすることが出来る。

2　ゴールキーパーの条件

GKには各種の能力が必要であるがとりわけ身体的条件として身長が高いこと、俊敏性、パワー、調整力に優れていることが必要であり、精神的条件としては、ボールに恐怖心を持たないことやシュートの予測能力に優れていることなどが挙げられる。GKを選ぶとき、その役割の重要性故に最も運動能力の優れている人をGKにする指導者がおられる。もっともなことである。一番大切なことは、一度実際にやらせてみて確かめることである。何も教えていなくても、初めからボールを恐がらず、タイミングや方向に対する勘の鋭い生徒がいるものである。この様な生徒がGKに先天的に向いているのである。

IHF／CCMメンバーであるスペートは、優れたGKの持つべき条件として表1に示している。

3　セービング動作習得の段階練習

シュートを阻止するのがGKの最も大きな仕事であるが、その技術を習得していく道筋は次のとおりである。

どんな技術も動作（テクニック）を習得することと、それを使いこなすこと（タクティック：戦術）が必要である。

GKのセービングの習得は、先ず中央からのシュートに対する動作を習得することから始める。

①各コーナーに対する基本的な動作（テクニック）の習得

ボールを使用しないで正しい動作を繰り返し習得する。動作に必要な体力、柔軟性は別途練習しておく。

②タイミング判断してのセービング

①で習得したテクニックを実際のボールに対して行う。動作開始のタイミングを合わせることが必要である。動作の開始を出来るだけ溜めて俊敏な動作で行う。シュートは方向を決めて行う。

慣れてくれば、同じコーナーをシュートするなかでタイミングやシュート動作を変化させて行う。GKはシュートフォームから方向とタイミングを読む能力を養いながら動作を習得する。

③方向とタイミングを判断してのセービング

GKの方向とタイミングの判断能力を養いながらセービングの練習を行うのであるが、シューターの打つ方向を自由にしないで制約を加え、徐々に制約を取っていく。初めは2方向から始める。下方向のいずれかをシュートし、GKは方向・タイミングを判断してセーブする。次いで上方向のいずれか、対角のいずれかのようにしていく。2方向が出来るようになれば、3方向選択、4方向選択、股下等を加えた5方向選択など選択肢を多くしていく。これはGKの方向判断を徐々に養って行くための一つの方策である。

以上が基本的なテクニックとそれを使ってのキーピングの実際を習得する手順である。同様にして各ポジションでのセービングを習得する。

4　セービング動作のポイント

本年卒業した筑波大学のGK栗山君が卒業論文でGKの動作について実験研究しましたが、その結論として次のように述べています。

①「可動域（動きの大きさ）」「スピード」は体力的条件や形態的条件の他に「重心の移動」の仕方と関連がある。

②「重心の移動」を有効に使うには表2の要素がある。

5　ロングシュートに対するキーピングテクニック

WORLD HANDBALL MAGAZINEにGKのトレーニングとしてIHF／CCMメンバーのデートリッヒ・スペート氏の記事が掲載されていたが、以下はスペートが1993年世界男子ハンドボール選手権大会を分析してロングシュートのセービングテクニックを述べたものである。

表1　優れたゴールキーパーが持つべき要素

身体的条件	技術戦術能力
上体のパワー	基礎技術
跳躍力	GKのポジションプレー
柔軟性・敏捷性	フェイント・フェイク
基礎持久力	試合におけるふるまい
動作の素早さ	約束事の取り決め
反応スピード	

A　基本的な動きのパターン：ボールの逆側の足で跳ぶ

シューターの狙いに関係なく（ボールの高い、低い、中間）すべてのGKは、基本的な動きのパターンを習得しなければならない。図1－1はGKが右上コーナーに放たれたボールをセーブしている典型的な技術を示した。

○技術的特徴

・右上コーナーへの跳躍によってボールをセーブするとき、ボールの反対側の足である左足で、基本位置からコーナーへ跳ぶ（図1の2，3）。

・ボールの側の足は（図1の右足）

振り出しとゴールを守る補助として使う。

・忘れてならない重要なことは、跳ぶ前の中間のステップ(つぎ足)は、ブローレスを避けるためにできる限り避けるべきである。

○長所

・この動きのパターンは、ほとんどすべての防御動作に適用され、習得することは容易である。

・身体の中心をボール方向へ持っていくようにする。

・ステップジャンプ(注:ステップを踏んでからジャンプするのでなく、図のようなジャンプの仕方をステップジャンプという)の技術は、すべての防御動作に適している(高い、中間、低いコースのシュートに対して)。

表2　重心の移動を有効に行う要素

	軸　足	振り込み足	上　肢	体幹部
上コーナー	・十分に蹴る	・ミート方向に膝を突き出す	・ミート方向の手は一気に突き出す	・上部をミートポイントへ出来るだけ近づける
下コーナー	・十分にためてから蹴る	・膝を視点に踵を突き出す	・逆方向の手は、極端に対角に突き出さない	・腰の先行を強調する

○短所

ジャンプ力に欠けているGKは、基本位置からの跳躍によって手で対角の上コーナーに到達することは困難である。ステップジャンプの技術すべてには、重要な利点があり、初心者から進んで基本技術として練習すべきである。

B　基本動作パターン:ボール側の足で跳ぶ

図2は、連続動作を示している。

○技術的特徴

・ボール側の足へ重心を移動する(No.2、3)

・セービングのためにゴール上コーナーへボール側の足で跳ぶ(No.3)。

○長所

・各コーナーへの動作は、最短距離で行える。

・両足が地面についたまま跳躍に移れる。GKはそれたボールにさえ反応出来るようになる。

○短所

・このセービング技術は、調整するのが難しい。

・低いボールのセーブには適さない。

・GKのレパートリーが、このジャンプテクニックによって広がりを持つ。ボールをセーブするための迅速な反応動作が要求されている特別な状況では、ボール側の足で跳ぶことの利点がある。

C　高いボールへのセービング

・両手でのセービング

今日では、高いボールに対しての防御は、主に両手で行われる(図1)。両手でセーブすることの利点は何かといえば、体幹をボールに持ってくることが出来るからである。またそうすれば、ゴールの上方における大きな範囲を守ることが出来る。大抵のスピードボールは、両手でセーブすることが必要とされる。

・片手でのセービング

トレーニング期間においてGKは、もちろん高いボールを片手で防御することも練習しなければならない。図3はボール側の足で跳び、片手でのセーブを示している。

○長所

・大きな範囲を防御出来る。

・急速な防御動作が可能である。

○短所

・ゴールのコーナーは、全身を持っていって防御することが出来ない(図3)。

・GKには、優れた調整力が絶対不可欠である。

優れたGKは、切迫した状況や反応出来ないとき以外は、片手によるセービングを使用しない。

D　中間のボールに対してのセービング

中間の高さのボールは、図4で見られるボールの反対側の足で跳ぶ動作パターンか、もしくはボール側の足で跳ぶ動作パターンが適用される。防御動作をコントロールして、中間のボールを両手でセーブすることが可能である。その利点も明らかである。ゴールのコーナーは、全身によって守らなければならない!

E　低いボールに対してのセービング

一般に低いボールに対しては、右記のステップジャンプ技術を適用することによってのみセーブすることが出来る。ボールをセーブするために2つの異なった技術が可能である。

1. 手と足によるセーブ(図5)。

○技術的特徴

・GKが基本位置からステップジャンプでゴール下コーナーに達する(No.1~3)。

・右足を振り出し、右腕は下方に動かす(No.3)。

・全身を右コーナーへ動かす。

・バウンドボールしたときの大きな得点エリアである下コーナーは、手足でセーブする。

2. ハードル選手のような姿勢まで動作する(図6)

○技術的特徴

・通常振り出された足は、下コーナーに向かって蹴り出される(No.1、2)。

・ボールは、ハードル選手のような姿勢までGKが移動することに

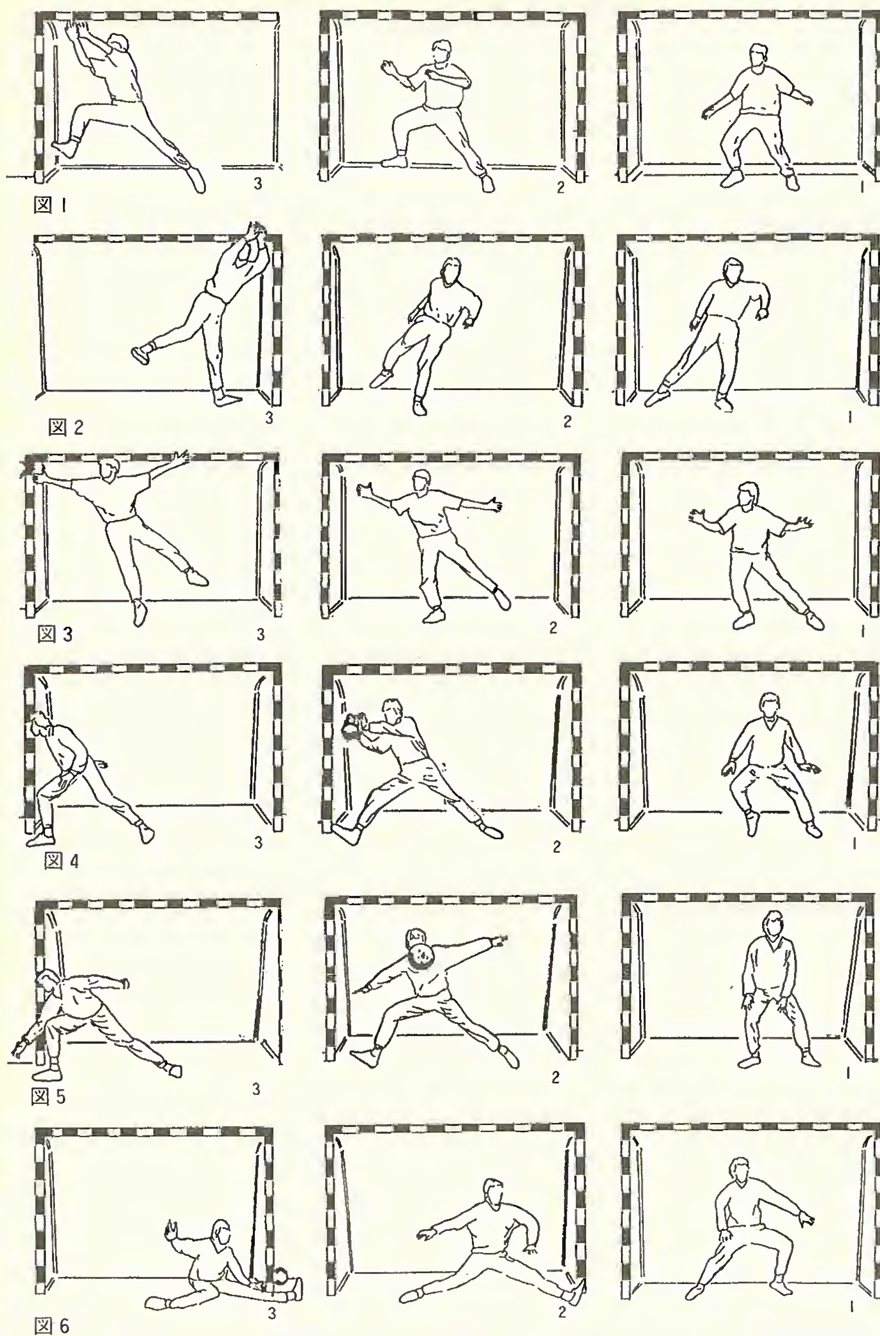
よってセーブする。
・ボール側の腕は、振り出される足の上にあり、バウンドボールに対して付加的な防御の役目を果たす。

GKは、ボールに対してアクティブに動作する。決して屈しないこと。

　二つの防御技術のうちどちらを使うかは、GKの身長や彼のおかれた状況（ボールへの距離、防御技術遂行に必要とされる時間等）に依る。優れたGKは、双方の技術を使い分ける能力を持つべきである。

6　GKのための行動パターン

・もし可能であれば、いつも防御動作において体幹をボールに移動する。
・出来る限りゴールの大きなエリアを上体、手、振り出した足で防御する。
・時間のロスを防ぐために、準備動作に時間を費やさないこと。
・出来るだけつぎ足をしないこと。
・身長の低い者は、アクティブにジャンプ動作をする。



来たれ！親子でマスターズへ
平成6年度
全日本教職員ハンドボール選手権大会
第2回マスターズ大会

趣　旨　本大会は永年にわたり、我が国のハンドボール界の次代を担う青少年の指導・育成と共に、自らの技術を高めるための努力を続けてきた別に定める年齢以上の教職員が一堂に会し、親善交流のゲームを通して互いの努力を讃え、生涯スポーツとして楽しみ、親睦と友情を深めることを目的とし、あわせてハンドボールのさらなる発展と普及を願って開催するものである。

主　催　全日本教職員ハンドボール連盟

後　援　愛知県教育委員会・豊田市教育委員会・㈶愛知県体育協会・㈶豊田市体育協会・中日新聞社

主　管　愛知県ハンドボール協会・豊田市ハンドボール協会

期　日　平成6年8月19日㈮　午後5時より開会式を行います。
平成6年8月20日㈯〜21日㈰

会　場　豊田市体育館

参加資格　平成6年度全日本教職員ハンドボール連盟への登録をした教職員の男子・女子であること。但し、男女とも年齢制限を設ける。男子は40歳以上とし、チーム編成上、38歳以上の選手を2名まで含むことができる。女子は35歳を下限とする（女子の参加については、その他を参照して下さい）

> **ハンドボールまつり**
> 楽しい「親子ゲーム大会」の参加者を募集します。
> 期日：8月20日㈯
> ☆ハンドボール入門
> ☆シュート合戦
> ☆親子ペナルティー合戦など

参加人員　①役員は、部長、監督、コーチ、マネジャーとし（コーチ又はマネジャーの何れか2名迄可）、5名以内とする。
②選手は、1チーム16名迄とし、申込み後の選手変更は認めない。
③選手の背番号は、No.1〜16の通し番号とし、申込み後の背番号の変更は認めない（試合は16名を出場可とする）
④各チームは、チームを代表する責任者として部長（顧問）また監督を付き添いとすること。
⑤申込み書により登録された役員、選手以外は大会中ベンチに入ることができない。

その他　女子の場合は教職員経験者の申込みを認める。また、個人による申込みも認める。個人申込み者のチーム所属については、大会本部の調整によるものとするが、申込み者の居住地によって、東日本・中日本・西日本の3ブロックに分けて編成するものとする。

大会事務局&問い合わせ先　〒470-03 豊田市貝津町床立101 中京大学体育学部ハンドボール研究室
小山哲央　TEL 0565-45-0971（内線544）　FAX 0565-46-1297（小山宛）

フリースロー

8人目のプレイヤー

広報委員　早川　文司

日本フェアプレー賞が決まり、Jリーグ初代MVPに輝いたご存じカズやJリーグのチェアマン川淵三郎さんらが表彰された。中でも交通禍から奇跡的に回復し、昨年の東四国国体少年女子3000m競歩で4位に入った順天大の板倉美紀さんが選ばれたことは、このタイトルに最もふさわしいと思ったし、さわやかさを感じないではおれなかった。

でも、心にちょっぴりと寂しい風が吹き抜けた。受賞者の中にハンドボール関係者が見当たらなかったことだ。来年はなんとしても名を連ね、胸を張って表彰式に臨んでほしいと思うのは、私ひとりではないはずだ。

ところで、表彰式に出席した川淵チェアマンが、外国人選手の審判に対する再三のクレームをまた厳しく糾弾した。外国人にしろ、日本人にしろ、審判に対しての執ような抗議は、ファンを失望させると同時に、ファン離れにもつながることを私は恐れる。

先日読んだコラムに、ゴルフ界のスーパースター、アーノルド・パーマーの人気がいまだに衰えないのは、ファンを大切にするからだとあった。世界の名選手でもファンの差し出すサイン帳に笑顔で応じ、最後に「サンキュー」を忘れないとか。この心掛けがファンを引きつけて離さないのだろう。

ハンドボール界にとっても、ファンなくしては、隆盛どころか衰退の道をたどることは目に見えているといっていいだろう。1997年の男子世界選手権熊本誘致の準備も大詰めを迎えている現在。もっとファンを大切にし、ファンサービスに本格的に取り組む姿勢を打ち出さなくてはなるまい。試合後のサイン会開催、ミニチュアボール・プレゼントなど、みんなアイデアや知恵を出しあっていきたいものである。

ファンにそっぽを向かれ、愛されないスポーツは、この世には存在しない。この原点を今一度、関係者は胸に刻んでほしいと思う。ファンは8人目のプレイヤーなのだ。

待望の実録ビデオ申込み受付中

第45回全日本総合選手権大会

著作・監修　(財)日本ハンドボール協会

制作　(財)日本ハンドボール協会審判委員会

①男子決勝　大同特殊鋼―本田技研
②女子決勝　北国銀行―シャトレーゼ
③男子準決勝　大同特殊鋼―中村荷役
④男子準決勝　本田技研―日新製鋼
⑤女子準決勝　北国銀行―ブラザー工業
⑥女子準決勝　シャトレーゼ―オムロン
⑦プレーオフ決勝　湧永製薬―日新製鋼
⑧プレーオフ準決勝　日新製鋼―本田技研
⑨バルセロナ五輪女子・島田レポート

＊申込み方法　現金書留で(財)日本ハンドボール協会ビデオ係までお申込み下さい。価格は1本につき3500円。納期はVHSで約1週間程度です。入金があり次第手続きします。

各地の大会結果

関東

全日本実業団トーナメント大会
（2月11～13日／神奈川県）

◎男子

▼1回戦

本田技研熊本 23－16 金沢市役所
北陸電力 27－14 東ソー
豊田合成 32－13 出光千葉
JUKI 30－16 神戸製鋼所
竹芝精巧 24－11 日本ガイシ
大阪ガス 39－14 常陽銀行
豊田自動織機 35－13 日本原研
本田技研鈴鹿 26－21 アコム
日鐵製鋼呉 30－12 日本耐酸壜
セントラル 22－12 住友金属
トヨタ自動車 33－9 住友生命
徳山曹達 39－9 三和銀行
新日鐵名古屋 22－12 日本発条
大同星崎 30－10 興和石油
三景 30－12 マツダ

▼2回戦

本田技研熊本 23－15 豊田合成
北陸電力 29－12 JUKI
竹芝精巧 27－24 豊田自動織機
大阪ガス 21－18 本田技研鈴鹿
セントラル 23－22 日鐵建材
トヨタ自動車 26－25 日新製鋼呉
大同星崎 20－16 徳山曹達
三景 28－17 新日鐵名古屋

▼3回戦

竹芝精巧 20－19 本田技研熊本
北陸電力 29－16 大阪ガス
大同星崎 38－19 セントラル
トヨタ自動車 24－23 三景

▼準決勝

大同星崎 30－20 竹芝精巧
トヨタ自動車 25－24 北陸電力

▼3位決定戦

北陸電力 29－21 竹芝精巧

▼決勝

トヨタ自動車 29（13－10、16－12）22 大同星崎

◎女子リーグ戦

ムネカタ 25－12 松下電工
JUKI 31－5 松下電工
JUKI 21－11 ムネカタ

東海

愛知県高校新人大会
（1月15、16、23日／大同特殊鋼体育館他）

◎男子

▼1回戦

春日丘 23－16 岡崎
半田 24－22 時習館
安城東 18－16 丹羽
瑞陵 20－15 桜丘
旭丘 19－12 五条
名城大付属 24－13 佐織工
愛知 29－11 美和
市工芸 21－14 豊田北

▼2回戦

岡崎城西 27－11 春日丘
中京 19－13 半田
東海 26－13 安城東
瑞陵 17－16 江南
旭丘 19－16 岡崎北
名城大付属 21－14 東海南
愛知 20－18 蒲郡東
桜台 27－8 市工芸

▼3回戦

岡崎城西 23－11 中京
東海 25－11 瑞陵
旭丘 18－5 名城大付属
桜台 19－10 愛知

▼決勝リーグ

岡崎城西 16－13 東海
桜台 20－12 桜丘
桜台 20－14 東海
岡崎城西 20－9 旭丘
東海 21－19 旭丘
桜台 15－13 岡崎城西

◎女子

▼1回戦

旭丘 24－15 衣台
春日井西 21－9 半田
木曽川 18－14 春日井
桜台 25－6 蒲郡東
半田東 14－12 一宮
豊田南 13－6 豊橋東
緑丘商 20－3 高蔵
岡崎西 11－8 一宮女

▼2回戦

名短付 40－15 旭丘
春日井西 27－11 佐屋
半田商 15－7 木曽川
桜台 12－8 三好
東海女 36－2 半田東
中京女 18－5 豊田南
豊橋商 13－10 緑丘商
安城学園 21－3 岡崎西
名短付 15－10 春日井西
桜台 18－12 半田商
東海女 17－10 中京女
安城学園 26－2 豊橋商

▼決勝リーグ

名短付 19－6 桜台
東海女 22－16 安城学園
安城学園 18－15 桜台
東海女 15－13 名短付
東海女 20－11 桜台
名短付 24－13 安城学園

三重県中学校新人大会
（1月15、16、23日／四日市市）

◎男子

▼1回戦

常磐 13－9 西笹川
大安 27－13 亀山
天栄 18－16 笹川
白子 13－8 菰野
東員第二 13－8 名張北

▼2回戦

西朝明 21－20 常磐
四日市南 19－7 大安
東員第二 15－9 白子
朝明 27－1 天栄

▼準決勝

西朝明 18－4 東員第二

朝明 15―11 四日市南

▼決勝

朝明 15 (7―2, 8―8) 10 西朝明

◎女子

▼1回戦

東員第二 15―2 白子
羽津 10―5 柘植

▼2回戦

四日市南 16―8 亀山
笹川 6―4 阿山
西朝明 15―5 大木
北勢 15―3 西笹川
菰野 11―8 桔梗ケ丘
大安 8―6 名張北
朝明 34―3 東員第二
天栄 17―5 羽津

▼3回戦

四日市南 12―5 笹川
北勢 9―3 西朝明
朝明 26―4 菰野
天栄 13―7 大安

▼準決勝

朝明 25―2 四日市南
北勢 19―10 天栄

▼決勝

朝明 15 (6―1, 9―1) 2 北勢

三重県高校新人大会

（1月9日／四日市市）

◎男子

▼1回戦

高田 22―7 上野工
津 16―10 朝明
四日市 23―22 津東
桑名 16―4 四日市四郷
桑名工 32―17 暁
四日市南 26―8 尾鷲
津工業 29―15 四日市中央工

▼2回戦

四日市工業 37―6 高田
海星 9―7 桑名北
津 13―12 津西
四日市西 22―9 四日市
桑名 23―12 桑名西
桑名工 26―14 川越
四日市南 18―16 上野
亀山 25―11 津工業

▼3回戦

四日市工業 42―2 海星
四日市西 20―14 津
桑名工 20―7 桑名
亀山 24―17 四日市南

▼準決勝

四日市工業 32―6 四日市西
桑名工 18―17 亀山

▼3位決定戦

亀山 17―16 四日市西

▼決勝

四日市工 26 (12―5, 14―5) 10 桑名工業

◎女子

▼1回戦

桑名 20―3 桑名西
名張西 16―12 上野

▼2回戦

暁 36―3 桑名
松阪女 29―4 津
四日市 13―12 津東
四日市商業 18―12 名張西

▼準決勝

暁 29―0 松阪女
四日市商業 28―18 四日市

▼3位決定戦

四日市 27―6 松阪女

▼決勝

暁 24 (13―2, 11―1) 3 四日市商

東海室内三重県予選会

（1月9、23日／四日市）

◎男子

▼1回戦

桑名西ク 36―17 四中工ク
宍一クラブ 25―15 梅ノ木ク

▼2回戦

西笹川ク 32―27 桑名西ク
三重教員 12―0 尾鷲クラブ
鵜ノ森ク 24―20 宍一クラブ
西朝明ク 12―0 本田クラブ

▼準決勝

三重教員 30―21 西笹川ク
鵜ノ森ク 30―13 西朝明ク

▼決勝

三重教員 20 (9―10, 11―9) 19 鵜ノ森ク

近畿

近畿高校新人大会

（1月28～30日／太陽ケ丘体育館）

◎男子

▼予選リーグ

育英 11―8 北嵯峨
八日市 20―14 紀北農芸
富雄 13―9 北嵯峨
育英 27―7 八日市
富雄 18―10 紀北農芸
北嵯峨 10―7 八日市
育英 18―5 紀北農芸
富雄 24―9 八日市
北嵯峨 19―7 紀北農芸
育英 16―13 富雄

▼準決勝

此花学院 17―12 富雄
育英 14―10 北嵯峨

▼3位決定戦

富雄 16―6 北嵯峨

▼決勝

此花学院 13―12 育英

◎女子

▼予選リーグ

夙川学院 11―6 添上
洛北 14―6 初芝橋本
彦根商業 10―9 添上
夙川学院 16―13 初芝橋本
洛北 14―4 彦根商業
初芝橋本 14―9 添上
夙川学院 11―11 洛北
初芝橋本 13―12 彦根商業
洛北 12―7 添上
夙川学院 12―9 彦根商業

▼準決勝

宣真 16―15 初芝橋本
夙川学院 10―9 洛北

▼3位決定戦

洛北 19―4 初芝橋本

▼決勝

夙川学院 15―12 宣真

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三四二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成六年五月二十六日 印刷
平成六年六月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
（年間購読料 三千三百円）

MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS





攻守を加速する新戦力ラインアップ。



ウィングゾーン EX-L ¥14,000
16KH-20109 サイズ:23.5〜28.0
ブラックにレッド・ゴールド 他3色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



ウィングゾーン EX-S ¥13,000
16KH-21162 サイズ:23.5〜28.0
ホワイトにレッド・シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



16OH-202 ¥4,700
検定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2



16OH-203 ¥4,800
検定球
亀甲型 天然皮革3号 HL-3



16OH-212 ¥4,400
準検定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2A

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR



スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。●ミズノ製品についてのお問い合わせご相談は「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」
東京 TEL (03)3233-7110 大阪 TEL (06)614-8110